

平成16年第4回藤岡市議会臨時会会議録

平成16年7月21日(水曜日)

議事日程 第1号

平成16年7月21日(水曜日)午前10時開議

- 第1 会期の決定
- 第2 会議録署名議員の指名
- 第3 市長発言
- 第4 議会運営委員会経過報告
- 第5 議案第48号 監査委員の選任について
- 第6 議案第49号 藤岡市・鬼石町合併協議会の設置について
- 第7 議案第50号 平成16年度藤岡市一般会計補正予算(第1号)

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（23人）

1番	安田 肇 君	2番	橋本 新一 君
3番	串田 武 君	4番	湯井 廣志 君
5番	斉藤 千枝子 君	6番	三好 徹明 君
7番	反町 清 君	8番	佐藤 淳 君
9番	茂木 光雄 君	10番	松本 啓太郎 君
11番	片山 喜博 君	12番	冬木 一俊 君
14番	神田 省明 君	15番	木村 喜徳 君
16番	針谷 賢一 君	17番	青柳 正敏 君
18番	坂本 忠幸 君	19番	塩原 吉三 君
20番	清水 保三 君	21番	隅田川 徳一 君
22番	大戸 敏子 君	23番	吉田 達哉 君
24番	久保 信夫 君		

欠席議員 なし

説明のため出席した者

市長	新井 利明 君	助役	関口 敏 君
収入役	堀越 清 君	教育長	岡田 要 君
企画部長	茂木 政美 君	総務部長	金井 秀樹 君
市民環境部長	有我 亘弘 君	健康福祉部長	吉澤 冬充 君
経済部長	荻野 廣男 君	都市建設部長	須川 良一 君
上下水道部長	三木 篤 君	教育部長	水越 清 君
監査委員			
	齋藤 稔一 君		
事務局長			

議会事務局職員出席者

事務局長	高橋 寛	参事兼議事課長	田島 均
課長補佐兼			
	山形 常雄		
議事係長			

開 会 の あ い さ つ

議 長（佐藤 淳君） 開会前の貴重な時間でございますが、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、平成16年第4回藤岡市議会臨時会が招集になりましたが、議員各位には公私とも極めてご多忙中、全員に近い方のご出席をいただきまして開会できますことを厚く御礼申し上げます。

今期臨時会に提案されます案件は議案3件でございます。いずれも市民生活に直接関係あるものでございますので、慎重にご審議いただきまして、議会としての意思決定をお願い申し上げる次第でございます。

なお、議事運営につきましては、まことに不慣れな私でございますが、何とぞ議員各位の格別なるご指導、ご鞭撻を賜りまして円滑な議事運営が図れますようお願い申し上げます。まことに簡単でございますがごあいさつといたします。

なお、ここで暑中の間、軽装で議会に臨みたいと思いますので、ご了承願います。

開 会 及 び 開 議

午前10時開議

議 長（佐藤 淳君） 出席議員定足数に達しましたので、議会は成立いたします。

ただいまから平成16年第4回藤岡市議会臨時会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。

報告いたします。

大戸敏子君から、平成16年7月21日付で本日の会議に遅刻する旨の届け出が議長宛に提出されておりますので、ご報告いたします。

第1 会期の決定

議 長（佐藤 淳君） 日程第1、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。今期臨時会の会期は、本日1日といたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議 長（佐藤 淳君） ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日と決定いたしました。

第2 会議録署名議員の指名

議 長（佐藤 淳君） 日程第2、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第80条の規定により、議長において2番橋本新一君、3番串田武君、4番湯井廣志君を指名いたします。

第3 市長発言

議長（佐藤 淳君） 日程第3、市長発言であります。市長の登壇を願います。

（市長 新井利明君登壇）

市長（新井利明君） 平成16年第4回藤岡市議会臨時会を開催いたしましたところ、議員各位におかれましては公私ともご多忙のところご出席いただき、まことにありがとうございます。心より御礼を申し上げます。

本年は、昭和29年に藤岡市が誕生し、市制施行50周年を迎えております。この節目の年を記念して、年間を通し多くの記念イベントが開催されております。7月17日、18日に開催した市制施行50周年記念藤岡祭りでは、2日間で約8万人が繰り出し、大変なにぎわいを見せました。フィナーレを飾った各町内の山車の競演は見る人の心を揺さぶり、多くの人に感動を与えてくれました。この祭りで見られた郷土愛や連帯感をこれからのまちづくりに生かしていきたいと思っております。今、日本じゅうの多くの自治体が平成の合併に揺れ、決断を迫られております。藤岡市も例外ではありません。任意合併協議会を設立し、紆余曲折を経てまいりましたが、私は協議会において審議を重ねる中で鬼石町との合併が必要であると考え、1市1町の合併を決意いたしました。鬼石町と合併することにより、合併による財政支援措置や特例措置を活用しながら、多野藤岡地域の中心都市としての自覚と誇りを持ち、地方分権型社会に対応したまちづくりを進めていきたいと考えておりますので、議員各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

本議会に提案申し上げましたのは、監査委員の選任、合併協議会の設置、一般会計補正予算と、いずれも重要な議案であります。慎重審議の上、ご決定くださいますようお願い申し上げます。開会のあいさつとさせていただきます。よろしくようお願い申し上げます。

第4 議会運営委員会経過報告

議長（佐藤 淳君） 日程第4、議会運営委員会経過報告であります。

議会運営委員会委員長の報告を求めます。委員長反町清君の登壇を願います。

（議会運営委員会委員長 反町 清君登壇）

議会運営委員会委員長（反町 清君） ご指名を受けましたので、議会運営委員会の経過につきまして報告申し上げます。

議会運営委員会は、議長の要請により7月20日、委員会を開催し、本日招集となりました平成16年第4回市議会臨時会の運営について協議したのであります。協議に先立ちまして市長及び担当部長から提出議案に対する概要説明を受けた後、議案の取り扱い、会期等について協議したのであります。

議案の取り扱いにつきまして、今回提案されますのは議案3件であります。それぞれ日程に従い、日程第5、議案第48号につきましては単独上程、単独審議、委員会付託及び討論を省略し、即決願います。日程第6、議案第49号、日程第7、議案第50号につきましては、単独上程、単独審議、委員会付託を省略し、即決願います。

会期につきましては、先ほど議長からお諮りして決定いたしましたとおり、本日1日と決定いたしました。

以上で、議会運営委員会の経過について報告を終わります。

議長（佐藤 淳君） 議会運営委員会委員長の報告が終わりました。

ただいま報告のありましたとおり今後の議事運営を行いますので、ご了承願います。

第5 議案第48号 監査委員の選任について

議長（佐藤 淳君） 日程第5、議案第48号 監査委員の選任についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。市長の登壇を願います。

（市長 新井利明君登壇）

市長（新井利明君） 議案第48号監査委員の選任について、ご説明申し上げます。

本市の監査委員は、議員から1名、知識経験者から1名、計2名と定められております。このうち知識経験者から選任された小林勇監査委員が、健康上の都合により平成16年6月30日をもって辞職され、現在欠員が生じております。その後任として中易昌司氏を選任いたしたく議会の同意をお願いするものであります。

中易氏は藤岡市藤岡に居住されており、昭和18年5月17日生まれの61歳であります。昭和39年5月に藤岡市役所に勤務され、在職中には財政課長、水道部長、都市建設部長、健康福祉部長、企画部長を歴任し、その職責を全うされ、平成16年3月31日に退職されました。公平にして正義感にあふれ、温厚で誠実な性格は多くの方から信望を得ているところであります。また、行政経験も豊富で、特に財政に精通しており、人格、識見とも高く、監査委員として適任と考え、ご提案申し上げるものであります。慎重審議の上、ご決定くださるようお願い申し上げます。

議長（佐藤 淳君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。ご質疑願います。

（「なし」の声あり）

議長（佐藤 淳君） お諮りいたします。質疑もないようでありますので、質疑を終結いたしましたと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（佐藤 淳君） ご異議なしと認めます。これをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第48号については、会議規則第36条第2項の規定により委員会付託を省略いたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(佐藤 淳君) ご異議なしと認めます。よって、議案第48号については委員会付託を省略することに決しました。

お諮りいたします。本件については討論を省略いたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(佐藤 淳君) ご異議なしと認めます。よって、討論を省略することに決しました。

これより採決いたします。議案第48号監査委員の選任について同意を求めるの件は、これに同意することに賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

議長(佐藤 淳君) 起立全員であります。よって、議案第48号監査委員の選任について同意を求めるの件は、これに同意することに決しました。

第6 議案第49号 藤岡市・鬼石町合併協議会の設置について

議長(佐藤 淳君) 日程第6、議案第49号藤岡市・鬼石町合併協議会の設置についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。市長の登壇を願います。

(市長 新井利明君登壇)

市長(新井利明君) 議案第49号藤岡市・鬼石町合併協議会の設置について、ご説明申し上げます。

本件は、地方自治法第252条の2第1項及び市町村の合併の特例に関する法律第3条第1項の規定に基づき藤岡市と鬼石町の合併に関する協議を行うため、藤岡市・鬼石町合併協議会の設置について地方自治法第252条の2第3項の規定により規約を添えて議会の議決を求めるものでございます。

合併につきましては、昨年12月8日、藤岡市、鬼石町、吉井町で構成する多野藤岡地域任意合併協議会を設置し、本年5月19日の第6回協議会ですべての項目について協議を終了しました。しかし、吉井町は、5月23日に行われた住民投票の結果、多野藤岡地域合併協議会から外れることになりました。私も市長として、新町を含めた1市3町の合併に向けて誠心誠意努力してまいりましたが、このような結果になったことを非常に残念に思います。

こうした状況の中、6月4日に行われた多野藤岡地域任意合併協議会の解散調印式後、鬼石町の関口町長から改めて1市1町での合併協議を進めたいとの申し入れがありました。私は、鬼石町長からの申し入れを真摯に受け止め、合併期限が迫っている中、鬼石町との合併が必要であると判断し、同町との合併協議を進める決意を固めました。その後、私の考えを説明するために、6月11日には議員の皆様への市町村合併に関する説明会を開催し、それを受けて延べ4回の合併問題調査特別委員会で、さまざまな観点から検討していただきました。さらに、7月5日には、議員による全員協議会においてもご検討をいただきました。また、6月から7月にかけて12回にわたる市民説明会を開催してまいりました。それらを踏まえ、ここに藤岡市と鬼石町で構成する法定合併協議会設置の議決をお願いするものでございます。

以上、提案説明といたします。本議案は、住民の将来を決定する重要な意義を持つものであります。議員各位におかれましては、慎重審議の上、ご決定くださいますようお願い申し上げます。

議長（佐藤 淳君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。ご質疑願います。

湯井廣志君。

4番（湯井廣志君） 第1回目の質問をさせていただきます。きょうアンケートの結果をいただいたのですが、2,200人に送付の中で回収率が40.5%、全有権者にすれば5%に満たないような数字の中での無作為抽出の結果ということで、私はこれで民意が反映できたとは当然考えておりません。この中で、無作為抽出891人の中の「将来を考えると合併もやむを得ないから行政の判断に任せる」まで入れると、74%が藤岡市と鬼石町の合併について賛成をしているようでございます。それと、区長、区長代理の中でも、「将来を考えるとやむを得ない」というところから「行政の判断に任せる」までを入れますと86%という非常に高い1市1町の合併の数字が出ておりますので、あえてこれについて質問はいたしません。規約の中の別紙について質問をさせていただきます。

まず、第9条でございますが、第9条の中で「協議会に参加を置くことができる」とされておりますが、一般的に参加ということになれば行政に関することでございますので学識経験者であると思われませんが、どのような人を参加として置こうと考えているのかお伺いいたします。また、第12条に「小委員会を置くことができる」と書いてありますが、この小委員会を設置するとすれば、どのような人たちを選任する予定なのか。また、どのような調査、審議を行うつもりなのかお伺いいたします。

議長（佐藤 淳君） 企画部長。

（企画部長 茂木政美君登壇）

企画部長（茂木政美君） お答えをいたします。

規約の関係でございます。まず初めに、第9条の関係でございます。協議会に参与を置くことができる。この参与につきましては、考え方といたしまして群馬県の市町村課長、そういった方を予定しています。

また、2点目の小委員会についての考え方でございますが、このことにつきましては協議会の委員の中から小委員会を設置できればと、このようなことを考えています。また、その小委員会で議論することでございますが、想定しておりますことは、例えば新市建設計画の考え、あるいは議員報酬の考え、または定数の考え、そういったことを予定しておりますので、よろしくご理解のほどをお願いします。

以上です。

議長（佐藤 淳君） 湯井廣志君。

4 番（湯井廣志君） 第12条の小委員会について再度質問いたしますが、法定協で決めることは幾つかありますけれども、私は法定協の中で協議することで一番大事なことというのは、新市建設計画と議員の身分の取り扱いだと考えております。その中で、第8条第3項で議員が4名選任されるものと思っておりますが、こんな少数で議員の意思を反映できるとは考えておりません。市民より負託を受けて選挙で当選してきた市議会議員、この人たちを小委員会に数多く加えて、住民代表として重要な決定事項を議論すべきであると考えております。この小委員会は置くことができるとなっておりますが、必ず設置していただき、合併協議会の他に小委員会に数多くの議員を入れていただくということを議会の公式の場で鮮明にさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

議長（佐藤 淳君） 企画部長。

企画部長（茂木政美君） お答えをさせていただきます。

小委員会についての考え方につきましては、先ほど述べさせていただきましたとおりでございます。議員ご指摘のとおり、新市建設計画、いろいろなことで問題点等が出まして協議されるわけでございますが、小委員会の委員につきましては今の協議会の委員の中でいろいろ検討していくわけでございますが、議員がおっしゃったように幅広く、いろいろな議員のご意見を聞く、そういった場につきましては議会の合併問題調査特別委員会、そういったものが継続されていくということで聞いておりますので、そういった場でいろいろご協議を願えればありがたいと思っておりますので、よろしく願いします。

以上です。

議長（佐藤 淳君） 湯井廣志君。

4 番（湯井廣志君） 行政の考え方では協議会の委員の4人の議員しか小委員会に入ることではないようでございますけれども、小委員会にそのほかの議員を入れて協議を行うという

ことは幾らでもできると思うのです。法定協の委員以外の議員をこの小委員会の中へ数多く入れることを強く要望いたしますので、再度この点をよく考えていただいて入れていただくようによろしくお願いいたします。

議長（佐藤 淳君） 暫時休憩いたします。

午前10時22分休憩

午前10時23分再開

議長（佐藤 淳君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長（佐藤 淳君） 他に質疑はありませんか。

冬木一俊君。

12番（冬木一俊君） 議案第49号藤岡市・鬼石町合併協議会の設置について、ただいま市長の方から提案理由の説明を伺いましたが、何点か確認したいので答弁をお願いいたします。

まず、この合併の方式について、さきの一般質問の中で市長が、鬼石町の吸収合併を前提にした合併をしたいというふうに議会に対して説明をしましたが、これに変わりはないか。これが1点目です。

それと、1市1町の合併を決断した理由につきまして、市長は鬼石町、自立、また高崎地域の選択肢の中で鬼石町との1市1町の合併を決断したということですが、なぜ高崎地域がだめなのか。なぜ自立ではだめなのか。この議会の場で明確な説明を求めます。

また、先ほど提案理由の説明の中で、各種団体、また住民説明会について計12回行ったというふうにあります。また、7月15日の広報の中で、合併に関する説明会を開催して活発に質疑や意見が出されたということなのですが、どのような質疑や意見が出されたのか議会に示していただきたいと思えます。

また、鬼石町長の強い意思を受けてと再三再四申されておりますけれども、鬼石町長の強い意思を受けただけで市長自身は決断されたのですか。それについて1回目の質問とさせていただきます。

議長（佐藤 淳君） 市長。

（市長 新井利明君登壇）

市長（新井利明君） お答えいたします。

まず、合併の方式でございますが、吸収、編入の形での合併方式というふうに考えております。また、自立、鬼石との合併、高崎市との合併という中で、なぜ自立、高崎市ではだめなのかということですが、まず自立につきましては国の今後の地方自治体に

対する支援、特別交付税、補助金等々でございますが、そういったものが非常に先行き不安がある。合併をする地域と合併をしない地域という中での交付税のあり方、こういったものを考えたときに今後自立というのは非常に厳しい選択になってくるというふうに私は考えました。また、高崎市という枠組みでございますが、皆さん考えられますように高崎市との合併ということになりますと今の高崎市との合併ということでございますが、この6月初めごろの高崎地域ということになりますと、高崎市の他に群馬郡、すなわち群馬町、榛名町、箕郷町、倉渕村、それに吉井町、新町が入った大きな枠組みでございます。藤岡市として、そういう合併の枠組みの中に入っていくというよりは、藤岡市、鬼石町、そういう選択の中で藤岡市としてしっかり、この藤岡市の50年、そしてまたその前の長い歴史、こういったものを考えたときに、これからも藤岡市として誇りを持ったまちづくりをしていくのだということを考え、藤岡市と鬼石町という合併を選択いたしました。

また、鬼石町長からの要請を受けたということでございますが、私もかねがね任意合併協議会のいろいろな協議を通して、この任意合併協議会の協議を尊重しながら鬼石町と合併できればという思いがありましたが、鬼石町長から任意合併協議会の解散調印後、吸収を前提とした合併を協議願いたいという申し入れでございました。それにつきまして、自立、鬼石町、高崎市という枠組みの中でいろいろと思索していたところでございますが、鬼石町の申し込みに対しまして藤岡市としては今までの広域の考え方、また広域の今後の進め方ということ考えたときに鬼石町と合併することが藤岡市として必要であるというふうに判断したところでございます。

以上でございます。

議長（佐藤 淳君） 企画部長。

（企画部長 茂木政美君登壇）

企画部長（茂木政美君） 各地区の説明会、団体等の説明会の主なご質問、ご意見等でございますが、鬼石町との合併による財政悪化の懸念、また合併することによる人件費の削減の話、またなぜ新町や吉井町が藤岡市と合併をしなかったか、その理由、あるいは広域行政、そういった事業は今後どうなるのか、また鬼石町病院と公立藤岡総合病院との関係、そのほか住民投票の関係、あるいは住民アンケートの関係、また新市将来計画の構想的な話、あるいは合併特例債の使い方、こういったものがご質問、ご意見等の主なものでございます。

以上です。

議長（佐藤 淳君） 冬木一俊君。

1 2 番（冬木一俊君） 2 回目の質問をさせていただきます。

今、市長から、私が質問したことについて丁寧にご説明をいただいたわけですが、市長は1市3町の合併を進めたいということで、当初は多野藤岡広域圏の核となる藤岡市

を中心に10万都市構想を抱いていたわけではないですか。先ほど提案理由の説明にありましたように、吉井町、新町の住民投票の結果、協議ができなくなったということですが、吉井町につきましては皆さんご存じのとおり先日の臨時会で、高崎市との法定合併協議会の予算ですけれども賛成少数でまだ通っていないという現状でございます。そういったものをいろいろ勘案してみても、市長は何が何でも1市1町、鬼石町との吸収合併を進めたいという考えであるようですけれども、まだまだ流動的なところがあるのではないですか。その辺についての見解をまず1点お伺いいたします。

また、先ほど企画部長の方から、住民説明会、あるいは各地区の説明会におきまして合併特例債の活用方法ということでご意見があり答えたということでもありますのでお聞きいたしますが、いわゆるこの合併特例債、新市建設事業に充てる運用額、百二十数億円ということで試算が出ているようでございますが、執行部はこの運用額の上限をどのくらいの額を考えているのかお知らせいただきたいと思えます。

それと、これは市長にお伺いいたしますが、市長は一昨年の選挙で合併の枠組みを鬼石町ということで公約してきたかどうか伺います。また、公約してきたなら証拠を示していただきたいと思えます。

以上で2回目の質問とさせていただきます。

議長（佐藤 淳君） 市長。

市長（新井利明君） お答えいたします。

7月16日の吉井町議会につきましては皆さんご承知のとおりだというふうに思いますが、議員ご指摘のとおり、まだまだ吉井町は流動的だというふうには思いますが、吉井町から藤岡市に申し込みがあったわけではございません。まだまだ、今、高崎市法定協の枠組みについて苦慮しているところでございますが、枠組みが決まらない時点で私が発言をするということはどうかというふうに思っておりますので、差し控えさせていただきます。

また、選挙の公約で1市1町を公約として挙げたのかということでございますが、公約として挙げてはおりません。

以上でございます。

議長（佐藤 淳君） 企画部長。

企画部長（茂木政美君） 合併特例債のご質問についてお答えをさせていただきます。

藤岡市と鬼石町が合併した場合、建設事業分の合併特例債の上限が122億4,000万円でございます。こういったものが認められるということですが、昨今の経済情勢、あるいは財政状況、そういったものを見ていく中で、動向としますと50%から60%くらいの事業債の活用を図った新市建設計画が妥当なのかな、そんな考え方を、今、持っ

ております。今後いろいろ皆様方のご意見を聞く中で新市建設計画を立てていくわけですが、事務局の段階の中では、そんな考え方を持っているところです。

以上です。

議長（佐藤 淳君） 冬木一俊君。

- 1 2 番（冬木一俊君） まず、合併特例債の額を、今、お聞きしまして122億4,000万円と
いうことですが、先日の新聞を見ましたところ、この合併特例債というのは万能
手形のように思われてきたけれども必ずしもそういうものではないということで明確にう
たっております。先ほど、市長は高崎市と答えましたが、私は高崎地域と言ったつもりで
ありますが、高崎地域の合併特例債の運用額を上限の半分に抑える方針を今現在出してい
る自治体もあるわけです。先ほど企画部長から、50%から60%というふうに考えてい
るという答弁をいただきましたが、50%から60%ということになると単純に計算して
122億円、50%として60億円ですよね。そのくらいしか使えないのです。あなた方
は、そういったものを住民説明会や市民団体の説明会のときに明言していますか。それ
について企画部長にお答えをいただきたいと思います。

また、市長選で鬼石町との1市1町の合併は公約していないということだと思うので
けれども、全くそのとおりですよ。私も含めて議員のほとんどが、選挙広報を拝見させ
ていただきましたが、鬼石町との1市1町の合併の公約はだれもしていません。合併は、
少なくとも市民の半数の賛成をいただき進めるべきではないですか。住民投票も全員への
アンケートもしないで、どうして鬼石町との合併を進めるのですか。それとも市長、あな
たは今後市民の反対があっても合併を進める気なのですか。市民の半数が賛成しなくても
進めていくのか市長に伺います。

私は、この問題については、6月議会で申し上げましたが、今こそ市民一人一人の意見
を聞くという市長の施政方針だというふうに伺っておりますので、市長提案型の住民投票
条例を議会に早急に上程していただき、合併前には必ず住民投票を実施していくべきでは
ないかというふうに考える一人でございますが、市長の住民投票に対する考え方を明確に
示していただきまして、私の質問を終わります。

住民投票をするかしないか、市長の考えを議場でお聞かせ願います。よろしく願いま
す。

議長（佐藤 淳君） 企画部長。

企画部長（茂木政美君） お答えをさせていただきます。

合併特例債の関係でございますが、地区説明会、団体説明会等におきまして合併特例債
のお話をさせていただいております。今、お話をさせていただいたような上限額、あるい
は合併特例債にかかわる交付税算入、そういった説明をさせていただいております。先ほど

お話し申し上げましたけれども、これを50%から60%くらい使っていくという話を明言しているかというご質問でございますが、私の方で説明していく中で出席していただいた方の中から、合併特例債はあくまでも借金ではないか、あまり使っていくと今後の財政状況が悪くなるのではないかと、こういった懸念するご質問をいただきました。そういったご質問をいただいた中で、こういった社会情勢の中で借金を市の財政状況と照らし合わせながら使っていきたいと思っております。考え方とすると、やはり50%から60%というのが妥当かと、そんなお答えを説明会場の中では明言をさせていただいております。

以上です。

議長（佐藤 淳君） 市長。

市長（新井利明君） お答えいたします。

住民投票につきましては考えておりません。鬼石町から吸収を前提として合併の申し込みを受けたという中では、藤岡市側が住民投票をして決めるということではなくて、我々執行部、そしてまた議会がしっかり議論した中で、この合併についての考え方をまとめていきたいと思っております。ただ、我々行政からしますと、考えた中身をしっかりと住民の皆さんに説明する義務がある。今まで12回の説明会をしてまいりましたけれども、まだまだ不足だというふうに思っております。合併の説明会の中で、5人、6人集まって合併の話を聞きたいという申し込みがありましたら、ぜひご一報くださいというお願いもしております。今後も1市1町の合併の進め方について、いろいろな場面で説明していきたいというふうに思っております。我々執行部側から市民に対する説明責任があるというふうに考えております。

以上でございます。

議長（佐藤 淳君） 他に質疑はありませんか。

青柳正敏君。

- 17番（青柳正敏君） 私は、特に市長にお聞きしたいと思っておりますけれども、多野藤岡の合併という中で3町に対して、その歴史文化を踏まえた自治体の尊重、最大限に尊厳を尊重するという形の中で対等合併を呼びかけた経緯があると思っております。新町、また吉井町が高崎市を選び、鬼石町長から形式にこだわらないで藤岡市との合併をという申し入れを受けたという中で、編入合併という姿勢に傾いているというふうに感じておりますけれども、なぜ対等という貴重な考え方を変えるのか。対等から編入になることについて、藤岡市はどのような特典を受ける可能性があるのか。対等と編入、事務的なことにおいても、事務量とか中身についてもあまり変わらないということも言っていますし、自治体の尊厳の尊重ということを出したのであれば、これを最後まで貫くべきではないかというふうに思うわけですが、この変わった理由、鬼石町から形式にはこだわらないという言い方をさ

れたのであればなおさらのこと、今までも呼びかけてきたとおり対等というような中で自治体それぞれが本当に尊厳を尊重し合う中で進めるべきではないかというふうに思うわけですが、この変わった理由についてお聞かせ願いたいと思います。

議長（佐藤 淳君） 市長。

（市長 新井利明君登壇）

市長（新井利明君） お答え申し上げます。

対等合併を目指した中で、なぜ鬼石町と編入合併になったかということでございますが、鬼石町長が形式にこだわらないと言うお話の後に、吸収を前提とした合併の協議をお願いしたいというふうに変ってきているわけでございます。藤岡市の特典、恩典、こういったものを考えるより、吸収であっても鬼石町から藤岡市に対して合併をお願いしたいということにつきまして真摯に受け止め、そして藤岡市と鬼石町の新しいまちづくりについて、任意合併協議会でやっておりました協議も参考にしながら進めていくということでございます。これにつきましては、鬼石町長にもしっかりとご理解をいただいて今の吸収を前提とした合併という話になっております。

以上でございます。

議長（佐藤 淳君） 青柳正敏君。

17番（青柳正敏君） 合併というものは非常に難しい面がありまして、任意合併協議会のときにも、いろいろ協議された中で難しい問題は当たりさわりのないような形で先送りといった傾向も多分に感じられる中で作業が進んだというふうに思います。これから数字合わせとか新市づくり、そういったものについて本当に真剣に鬼石町と藤岡市が腹を割った中で話し合い、新しいまちづくりを目指す。そういったとき、やはり基本となるべきは対等という中で進まざるを得ないのではないかというふうに思います。問題が起きたときには私に従ってくださいというのが吸収ではないかというふうに思います。自治体がそれぞれの立場を理解し合い、新しいまちづくりを進めるというのであれば、やはりこの姿勢こそが一番大切なのではないですか。いろいろな地域で法定合併協議会が立ち上がっていますけれども、これが壊れるのは吸収、編入合併、こういった形で進んでいるところの方が非常に多いということも気づいていらっしゃるかと思います。それぞれが、今までの自治体、自分たちが住んできたこのまちをという姿勢の中で新しいまちづくりに進むという中においては、やはり対等という中で鬼石町と新しいまちづくりを進めるための話し合いに臨むべきだと思いますけれども、もう一度市長の考えをお聞きしたいわけでありまして。この議決によって法定合併協議会が立ち上がるわけですが、この基本的な形の中で対等という姿勢で臨むべきだというふうに思いますので、市長に再度考えをお聞きしたいと思います。

議長（佐藤 淳君） 市長。

市長（新井利明君） 議員ご指摘の問題については、合併という難しい問題を進めるに当たって基本的な姿勢として大変大事なことだというふうに私も認識しております。ですから、鬼石町が合併の形にこだわらないというところから、吸収であっても合併の協議をお願いしたいというふうになってまいりましたが、私としましてはこの鬼石町の吸収であってもという申し込みに対して、それを受け止めました。ただ、今、議員ご指摘のように、いろいろな局面でお互いの立場を理解し合いながら、尊重し合いながら、今後、合併協議を進めていかなければいけないというふうに考えております。鬼石町長も言っておりますけれども、今まで職員を通して、また幹事会を通して任意合併協議会をやってきた。このやってきたことが、これからの行政の進め方にとって大事なことだと、私もそういうふうに申し上げておりましたので、形は吸収でありますけれども、任意合併協議会の事項も尊重しながら今後やっていきたいというふうに思っております。ですから、対等から吸収になったということを議論するのではなくて、吸収ではあるけれどもしっかりと鬼石町の立場も尊重しながら今後の合併協議をしていきたいということを考えております。

以上でございます。

議長（佐藤 淳君） 青柳正敏君。

17番（青柳正敏君） なかなか理解してもらえないのが非常に残念であります。代表者会議の経過の中で、藤岡市の合併に関するアンケート結果についてということで問6、最後の設問でありますけれども、この合併についての意見や要望がございましたらご自由に記入してくださいという、これについてどのような意見が市に寄せられているのか。これについて、できましたらこの場でお示しをいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

議長（佐藤 淳君） 企画部長。

（企画部長 茂木政美君登壇）

企画部長（茂木政美君） お答えいたします。

アンケートの関係でございます。問6の主な質問事項等でございます。342件ほどいただきました。その中で最も多かったものにつきましては、鬼石町との合併に賛成のご意見です。その次に多いのは、まちづくりに対するご意見でございます。その次に多いものは、高崎市との合併を望む、そういったご意見でございます。総体的には合併に賛成のご意見、あるいはまちづくりのご意見、こういったものが多かったようでございます。

以上です。

議長（佐藤 淳君） 他に質疑はありませんか。

清水保三君。

20番（清水保三君） 国の政策から始まって、この平成の大合併の大合唱にのったというふうに

言えると思います。国の財政状況がものすごく悪いわけですが、国の財政を悪くしたのは国の責任であって地方自治体ではない。その財政対策の一環として大合併が押しつけられたというふうに私は解釈しています。これから合併特例債を利用するということで考えてみますと、先日の新聞等で報道されていまして、太田市が予算を組んだのににもかかわらず不交付団体になってしまったということまであらわれてきているわけですので、将来合併したから、あるいはしないからといって、そういう面で切り捨てをされるのではないか。そのくらい私は信用していないわけですが、その点では、今、市長はどんな見解を持っているのか伺っておきたいと思います。

議長（佐藤 淳君） 市長。

（市長 新井利明君登壇）

市長（新井利明君） お答えします。

合併するしないという議論ではございませんが、国が今後、交付税、補助金等々の削減という中で、三位一体の改革という中で地方に対する税の委譲ですね、こういったものをあわせて考えておるといふふうに聞いておりますので、地方の切り捨てということにはつながらないといふふうに考えております。

議長（佐藤 淳君） 清水保三君。

20番（清水保三君） 三位一体の改革などといって税源移譲するといふふうには言っていますが、結局はそれかなり削った形での税源移譲ではないか。まだ具体的には何も示されていませんけれども、この秋あたりになると大変な事態が結果として出てくるのではないかといふふうに心配をしている一人です。

それから、市民の中には、この合併特例債を使って庁舎をまたいじるのではないかというような意見もございます。そういうことになるとまた箱物ですけども、住民サービスがますます置いていかれてしまう。あるいは福祉政策が置き去りにされていくというような事態が生まれてくる。ですから、特例債を使った箱物はやめるべきだと私は思いますけれども、市長の見解を伺います。これは、当然、法定合併協議会の中で決めていくものだといふふうに思いますけれども、今の市長の見解をお願いしたいと思います。

議長（佐藤 淳君） 市長。

市長（新井利明君） お答えいたします。

合併特例債を使って庁舎をいじるということが取りざたされているということでございますが、そういう発言をしたことはありません。藤岡市、鬼石町の合併の中で大事なのは、やはり市民生活に直結する問題、こういうふうに思っております。ですから、例えば道路の問題等々が優先されるだろうといふふうに考えております。

議長（佐藤 淳君） 他に質疑はありませんか。

木村喜徳君。

1 5 番（木村喜徳君） 質問をさせていただきます。

先ほどほかの議員から質問があった内容も入ってくるわけですが、合併方法については編入ということで市長はたびたび言っているのですが、きょう鬼石町の方でも、これと同様の内容の議会が開かれているわけです。市長と町長で約束がきちんとなされているようなのですが、鬼石町の議会の方でも町長に対して編入なのか対等なのかということを確認してほしいと言っている議員がいると思うのですが、この辺は市長の言っている編入で間違いはないのか。確認のために聞かせてください。

2点目として、アンケートの回収率が40.5%ということなのですが、これについてどう思っているかお聞かせください。

3点目として、説明会の中で財政上の問題について説明してきたというのですが、議会に対して鬼石町の財政上の問題を説明してくれたのと同じようにしてくれたのか内容を説明願います。12回やって556人参加してくれたそうなのですが、この人数に対してどう思われているのか。これで行政側の意見が市民に反映できたのかということです。

4点目として、先ほど市長が鬼石町と合併した場合には藤岡市としてのまちづくりができるとおっしゃっていましたが、具体的に藤岡市のまちづくりというのはどういうことを考えて言っているのかお願いいたします。

5点目として、今、鬼石町では病院の整備、また町民ホールというものを十数億円かけてやっていますが、これは一般会計からの持ち出しなのです。そっくりそのまま借金となって、この合併が実現した場合には藤岡市にお土産としてくるわけですよね。この辺についての見解をお願いいたします。

以上です。

議長（佐藤 淳君） 市長。

（市長 新井利明君登壇）

市長（新井利明君） お答えいたします。

合併の形式については、編入合併を前提として協議をするということでございます。

議長（佐藤 淳君） 企画部長。

（企画部長 茂木政美君登壇）

企画部長（茂木政美君） まず最初にアンケートの回収率についてですが、2,200人ということで無作為でやりまして、回収率は50%くらいということでお話をさせてもらっている経過がございます。回収率はちょっと少なかったですが、妥当かなと思っています。

次に、財政状況等の問題、これにつきまして議員さん方に対するご説明と、団体、あるいは地域の説明会等の説明の内容につきましては同じ趣旨でさせていただきました。特に財政問題等につきましては、鬼石町と藤岡市を比較対照いたしました例えば借金の返済額、あるいは財政調整基金の問題、あるいは財政力指数の問題、そういった問題を説明させていただきます、ご意見等を伺っています。

次に、説明会等の出席者が少なかったということですが、区長さん方に大変ご尽力をいただきまして、説明会により多くの人に来ていただくように、各地区の説明会のほかに、みかぼみらい館でもさせていただきました。そういった中で、平均いたしますと1会場30人という感じを持っておりますけれども、少なかったということで、先ほど市長から説明責任というお話がありましたけれども、その中で合併に関する出前講座、そういったものを積極的に活用いたしまして、市民の皆さんにご理解いただくように説明をしていきたい、そういうふうに考えています。

次に、鬼石町の病院の関係でございます。この関係につきましては、現在の病院の経営の収支につきましては黒字ということで聞いています。また、病院を建設するときに病院事業債、そのほか過疎債等を使って病院建設をする計画でございます。過疎債に対しての返済は町でやっていく計画です。当然、合併をすれば、その自治体で返済していくということでございます。ただ、合併特例債ではなく過疎債の使用でございます。そういった使用の中でも、過疎債の交付税算入が高い率でございますので、そういった面で財政状況に及ぼす影響が少ないのではないかと考えています。

以上です。

議長（佐藤 淳君） 暫時休憩いたします。

午前11時2分休憩

午前11時3分再開

議長（佐藤 淳君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長（佐藤 淳君） 市長。

市長（新井利明君） 藤岡市の今後のまちづくりというご質問でございますが、先ほど清水議員の質問にお答えしましたように、まずは住民の生活に密接に関係する道路等、こういったものを考えておりますが、今後、藤岡市、鬼石町の合併協議会のメンバーの中でお互いのまちづくりを進めていく議論をするわけでございます。ですから、先ほど議員ご指摘の病院、文化ホール、鬼石町のこういった施設もあるわけでございます。こういったものを利用しながら藤岡市のまちづくり、また藤岡市で、今、持っている施設を利用した鬼石町の

まちづくり、こういったものについて、お互いの考え方を協議会の中で議論すべきだというふうに思っております。

議長（佐藤 淳君） 木村喜徳君。

15番（木村喜徳君） まず、編入ということなのですが、先ほど申しましたように、きょう鬼石町も議会を開いていて議員の方から町長に確認をしています。市長は、鬼石町との合併は編入というのが相当のウエートを占めているというふうに議員に説明しているし、市民にも説明しているのです。だから私は聞いているのですけれども、これが崩れたときにはどういう考えなのか再度お願いいたします。

回収率が50%というのは、郵送でしますと大体50%前後らしいのですけれども、この前、統計学上でいくと千人くらいの答えがないと平均値が出ないというような答弁をなさっていなかったですか。何となく覚えているので、今、質問してみたのです。この見解について、もう一度お願いします。

財政上の問題ですが、市民の皆さんにいろいろな指数を挙げてみてもちょっとわからない面があると思うので突っ込んだ質問はなかったと思うのですけれども、いずれにしても合併をするからにはよくなるための合併が大前提なのです。悪くなるための合併なんていうのは考えられない。昭和の大合併は、戦後10年経って大きくなるとういう 困気の中でしていった。今度の平成の合併は逆です。行政上の経費を節約して小さくしようという中でやっているものですから、財政的にマイナスの地域を選んでいるのに、これが最善の策だというふうに広報に書いてあるのです。これは話が全然違うのではないかと思うのです。これも、もう1回答弁願います。

藤岡市のまちづくりというのはどんなまちづくりかと言ったら、道路等ということなのですが、例を挙げては申しわけないのですが、鬼石町と通じる道を考えるより高崎市と通じる道考えた方が市の基盤整備にはるかに有利だと思うのです。その辺のことをきちんと議会に説明できる状態で、こういう議案は提出してほしいのです。委員会の中では具体的に述べたそうなので、そのことも含めて、もう少し具体的に述べてください。

また、病院の関係については、鬼石町は過疎債を使ってずっとやってきているわけです。それだけでも鬼石町の財政は非常に悪化している。過疎債を使っているから藤岡市に持ち込む負担は非常に少ない。これは理屈に合わないと思うのです。そうではないですか。病院と町民ホールを建設したことによって、交付税その他いろいろあると思うのですけれども、それを引いた額というのはわかりませんか。具体的にわかったら答弁願います。

議長（佐藤 淳君） 企画部長。

企画部長（茂木政美君） まず最初に、アンケートの関係についてお答えをさせていただきます。

アンケートにつきましては千人に達しなかったということで、私も残念だと思っておりますけれども、それに近い結果にはなったということでもあります。統計学的に千人に達していなかったわけでありましてけれども、このことについては合併に対する関心がちょっと少ないのかなという感じがしています。また、今回のアンケートの中で市民の傾向が十分得られたかと、そんな感じを持っているところでございます。

次に、病院の関係で議員ご質問の建設するときの費用、あるいは多目的ホールを建設するときの費用、その後の起債等でやっているものもでございます。そういった返済の金額についての資料を、今、手元に持っておりませんのでお答えできませんが、病院の経営状況の資料がここにありますので、ご説明をさせていただきます。鬼石町病院につきましては、平成元年度より平成8年度まで赤字経営が続いておりましたが、平成9年度より15年度まで黒字経営になっております。ちなみに数字でございますが、平成14年度は1,449万9,000円の黒字、また平成15年度が1,908万9,000円の黒字見込みでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

議長（佐藤 淳君） 市長。

市長（新井利明君） お答えいたします。

編入の考え方が崩れたときというご指摘でございますが、町長との今までのいろいろな話し合いを考えたとき、崩れるということについては考えておりません。また、よくなるための合併でなければいけないということは、まさしくそのとおりだと思っております。合併してお互いの町がよくなるということでは非常に残念でございます。ただ、よくなるために、しっかりと行財政改革を進めながら、また新たな事業に回していかなければいけないということでございます。例えば、行財政改革の中で大変大きなウエートを占めるのが人件費の削減かというふうに思っております。今後も藤岡市、そしてまた新市ができました場合には、その中でもしっかりと人件費の削減等々について行財政改革を進めていきたいというふうに思っております。

高崎市との道につきましては、藤岡市民からしますと、高崎市に通勤されている皆さん、通学されている皆さん、そしてまた買い物等々で高崎市に行かれる皆さんが多いわけでございます。例えば今までありました寺尾線の新しい架橋の話、こういったものも大変重要なまちづくりになるのではないかというふうに思っております。また、特別委員会でお示したものの、例えば長瀬バイパスにつきましては周辺の開発、こういったものも含めて新市にとってプラスになるようなものややっていきたいと思っております。そしてまた藤岡市街地の活性化、こういったものにもしっかりと目を向けていく。藤岡市のふじふれあい館で今年のお客様が16万人というふうに言われております。鬼石町は、桜山というすばら

しい環境の公園を持っておりますけれども、これも年間20万人というふうに聞いております。そういう中で、お互いのすばらしいものを出し合いながら、また観光面での新市の活用の仕方、こういうものをやっていけば都会の方からもお客様をたくさん呼ぶようになったり、また市民の憩いの場になっていくというふうに考えております。そういったものを新市の今後の計画の中に反映させていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（佐藤 淳君） 暫時休憩いたします。

午前11時15分休憩

午前11時17分再開

議長（佐藤 淳君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長（佐藤 淳君） 木村喜徳君。

15番（木村喜徳君） 合併協議会については、恐らく市長、町長の方できちんと約束がしてあるので、その方向で進むと思いますので、ちょっと答弁を聞き逃してしまったのですけれども結構でございます。

アンケートについては少なかった。市民の方々が合併について関心を持たないから少ないのだと思います。説明会も非常に少ない。行政側は市民に対して合併が、藤岡市は現実問題として取り組んでいるということのPRが少ない。情報提供その他を含めて宣伝が少な過ぎると思うのです。今後、出前講座あたりでやっていくと言ったのですけれども、任意合併協議会の時点で出前講座云々でどのくらい来たかということ、1会場に7人とか多くて10人、これでは100回やったら700人とか千人ですよ。資料を含めて市民の方に説明する方法を改めて考えてもらいたい。その方法が考えてあればおっしゃっていたきたいと思います。

あとは、基盤整備の問題ですけれど、これは鬼石町とか高崎市とかではなくて、どうせ今後、法定協議会の都市構想という中できちんとやっていくのですから、桜山温泉とか、そういうことも部分的には結構だと思うのですけれども、きちんとした大きな形の中で、そういうものを位置づけていくような考え方でやってほしいと思います。委員会の中では、先行してやっていきますという答弁があったらしいのですけれども、これについて私は納得がいきませんので、そういう大きい形の中できちんとやっていくことをお願いします。

また、病院の関係なのですけれども、現在は黒字ということで非常によろしいのですけれども、平成8年まで赤字ということで、これは累積赤字などはわかりますか。最後に病

院の関係をお聞きしまして質問を終わります。

議長（佐藤 淳君） 暫時休憩いたします。

午前 11 時 20 分休憩

午前 11 時 25 分再開

議長（佐藤 淳君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長（佐藤 淳君） 企画部長。

企画部長（茂木政美君） お答えをいたします。

まず最初に、広報の関係でございます。このことにつきましては、インターネットのホームページ、あるいは合併のニュース、また広報誌の活用、そういったことで広報活動をしているわけでございますが、先ほど出前講座等の話もさせていただきましたけれども、より住民の方にご理解をいただくために、こちらから団体等の集まりがあるところに積極的に出ていくような形も考えていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

そのほか、鬼石町病院の累積赤字の問題でございます。今、休憩中に病院の方に電話をしたのですが、担当がおられなかったため状況等がわかりませんので後日報告させていただきますということで、ご理解のほどお願いいたします。

以上です。

議長（佐藤 淳君） 他に質疑はありませんか。

松本啓太郎君。

10 番（松本啓太郎君） 各地区の説明会会場での市長のあいさつ、そこでどのような発言を各地区に対してしてきたかお伺いいたします。

それから、住民投票条例の制定ということで、先ほど冬木議員が質問されましたけれども、その考えはないという市長の答弁であります。私は、平成 15 年 4 月の市議選におきまして、市町村の合併について合併はした方がいいのではないかという程度の発言はしておりますけれども、合併先とか具体的なことについては一切述べなかったわけでありまして、私は、住民の意向を聞くということが大切ではないかというふうに考えます。特にアンケートでありますけれども、藤岡市のアンケートは 2,200 戸というふうに解釈していいかわかりませんが、10%の方から意見を伺うというようなことであります。

ちなみに榛名町の住民投票でありますけれども、7月11日に参議院選挙と同時に実施された住民投票は 18 歳からの方の意見も受け入れる。また外国人についても、在任何カ月かという制限はありますけれども、そういう方からも意向を聞いておるということであります。藤岡市の 2,200 戸の方から意見を求めるということについて、統計学上はこ

れでいいのだというけれども、私は大変民意を反映しないアンケートのとり方であったというふうに思います。私は、民意の反映ということは大事だというふうに考えております。

それでは、各地区説明会の中での市長のあいさつの内容についてお伺いいたします。

議長（佐藤 淳君） 市長。

（市長 新井利明君登壇）

市長（新井利明君） お答えいたします。

各地区での説明会でのあいさつでございますが、まず合併の必要性というものにつきまして触れました。そして、5月23日の新町、吉井町の住民投票以降、私が鬼石町との合併、自立、そしてまた高崎地域への合併というものの中で、なぜ鬼石町との合併を選択したかということにつきましてお話をさせていただきました。高崎市との合併をしないということにつきましては先ほどお話ししましたが、現在の高崎市ではないということ、群馬郡4カ町村、そしてまた新町、吉井町という大きな枠組みであるということ、今後、藤岡市としてのまちづくりを進めていくために高崎市に入るより藤岡市、鬼石町の合併を選択した方がいいのではないかというふうに考えたということについて話をさせていただきました。そして、鬼石町が財政的に大変な地域だという新聞報道もありましたけれども、現時点での財政指数とか財調の金額等々を参考にしながら、合併すると財政が大変なことになるということではなくて、そのメリット、特例債や財政支援金等々のメリットの方が今後の藤岡市として大事になるのではないかなというようなお話をさせていただきました。

以上でございます。

議長（佐藤 淳君） 松本啓太郎君。

10番（松本啓太郎君） あいさつの中で合併特例債を使って云々ということを経済圏に対して述べてこられたかどうか、その辺を伺いたいと思います。

それから、広域市町村圏と市町村合併ということについてでありますけれども、新町は高崎市を住民投票で選んでいる。しかしながら、これは飛び地であります。まことに不自然だというふうに考えております。また、緊急の場合を考えると不都合なのではないかというふうに考えます。

また、吉井町につきましては、法定合併協議会の予算を否決したということでありまして、藤岡市が最初に目指した1市3町、10万7,000人の都市を目指したわけでありましてけれども、広域市町村圏という中を考えたときに、再度1市3町、多野広域圏での合併ということについて、多野藤岡の中心である藤岡市、その市長が呼びかけるべきではないかというふうに思うわけでありまして、先ほどの冬木議員の質問に対しまして、今はどうかというふうに答弁をされておりますが、やはり1市3町、長い間ともに助け合った広域でありますので、ぜひとも最後まで捨てないでいく方法を考えていただきたいというふ

うに思います。もう一度、あいさつについてお伺いいたします。

議長（佐藤 淳君） 市長。

市長（新井利明君） ご質問の特例債を使った事業ということを各地区で説明したかということですが、各地区におきまして特例債事業、こういったものが今後のまちづくりに大変重要な意味を持つということでお話をしてきております。飛び地は大変不自然だというふうにご指摘でございますが、私もまさしくそう感じておりました。今後も広域の事業を進めていくということで、今後も新町、吉井町に私の方から合併について働きかけていくべきだというご指摘でございますが、今までずっとそういう形で働きかけてきたわけでございます。そういう中で、こちらの目指した枠組みの任意合併協議会にも入らないという新町、また入って検討した結果、外れていった吉井町、広域事業はまさしく大事だというふうに思いますし、今まで両町に対してしっかり働きかけてきたわけでございます。しかしながら、結果として違う合併の枠組みに入っていくということを決められたわけでございます。今後、両町の考え方がどういうふうになるのか、その辺を見きわめた上でこちらからも考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

議長（佐藤 淳君） 松本啓太郎君。

10番（松本啓太郎君） 新町と吉井町が、今、高崎市に向いているわけでありますが、今までとものにやってきた精算ですか、消防をどうするかとか、または最終処分場をどうするかとか、あるいは一部事務組合をどうするかとか、この辺の事務作業はどの辺まで進んでおるかお伺いいたします。

以上で質問を終わります。

議長（佐藤 淳君） 企画部長。

（企画部長 茂木政美君登壇）

企画部長（茂木政美君） お答えいたします。

一部事務組合の問題につきまして、この件につきましては市長が管理者になってございます。管理者の指示の中で、今、事務局長レベルの中で数回の打ち合わせをしております。今後、広域圏等の管理者会議が8月に予定されていると聞いています。そういった中で、さらに議論を重ね、また市町村長からの指示のもとに、恐らく担当課長会議等の設定をして具体的な検討案に入っていく、そういった経緯になると思っておりますので、よろしくお願いたします。

以上です。

議長（佐藤 淳君） 他に質疑はありませんか。

針谷賢一君。

16番(針谷賢一君) 多くの議員からいろいろのご意見が出ました。そういった中で、今回の各種団体なり市民への説明、それにわずか552人しか出席していない。藤岡市の有権者は5万888人ですので、1%にも満たないような状況ではないかと、こんなふうにしてあります。この辺は市のPRが足りなかったのか、市民の合併に対する意識が薄いのか、その辺は執行側も十分検討していただいて、出前講座もするというのを言われておりますので、その辺は浸透するよう努力をお願いいたします。

そこで1点だけ伺いますが、本市は平成14年度から財政非常事態宣言を出して行財政改革に取り組んでいるわけでございます。私は、この財政改革というのは、多分いろいろなものを削減したりしている改革だと思うのですが、減らすといろいろなものが元気がなくなってしまう。やはり、これからは何とか自主財源を少しでもアップして、市を元気にしていかなければならない。そのために、この合併も非常に1市3町を期待していたのです。ところが、ほかの町の事情で1市1町ということになったのですが、やはり合併はメリットがデメリットを上回らないと、あまり意味がないような気がするのです。先ほど市長の方からお話がありましたけれども、鬼石町長が吸収であってもいいからお願いをしたい、または編入で協議をしているといった答弁をいただいたわけです。ですので、この合併については藤岡市主導の藤岡市全体を見渡した将来構想をしっかりと、新市建設を見据えてやっていただきたいというふうに思っているわけです。

そういった合併の中で、いろいろな学者が言っているのですが、地域の人々が自分たちの夢や未来を描けない地域は衰退し、地域の人々が明るい未来を感じるところは伸びている。そしてまた、政策立案能力の向上、自主財源の新たな創出とその拡大、地域経営力の増進を非常に求める。こういったことが大事だというふうに思います。この中に自主財源が出ておりますけれども、藤岡市の自主財源が平成14年度が51.3%、15年度が49.6%、そしてまた地方交付税が、平成12年度が44億7,000万円ありました。それが、平成14年度は37億2,000万円、平成16年度の交付税の見込みが29億円と非常に少なくなっております。ですので、合併をした場合に自主財源を少しでも増やしていかなければ将来構想が見えてこないのではないかと、こんなふうにしてあります。

私も、合併問題調査特別委員会を2回ほど傍聴させていただきました。その中で、市長から新市建設計画、鬼石町の方に新しい道をつくるとか道路を整備するとか、またはある温泉地域を整備したいとか、そういった話が出ておりました。鬼石町長が吸収であってもいいからお願いしたいと言っているのですから、その辺の視点をぜひ藤岡市の方に向けていただいて、まだまだ未整備の場所、中、上大塚線だって、まだつながっておりません。そういったところがつながることによって工業誘致、そういうことも可能になってくるわ

けです。そしてまた、地元の話になりますけれども、北藤の問題もあります。そういうところも、整備されれば人がだんだん住んでくるのです。そうすれば、知らず知らずのうちに税収も上がってまいります。その辺の視点を変えていただいて、投資すべきところには思い切って投資していただきたい、こんなふうに思います。

そして、市長にお伺いするところですが、この本市の自主財源を今後どのようにして増やしていく政策、方針があるのかお伺いいたします。

議長（佐藤 淳君） 市長。

（市長 新井利明君登壇）

市長（新井利明君） お答えいたします。

今、議員からご指摘の件、大変重要なことだというふうに認識しております。地域経営力、こういったことも行政として大変重要なことだというふうに思っております。今後の視点を藤岡市の振興というものに移すということでございますが、私は逆に藤岡市の振興に目を移すのではなくて藤岡市の振興なくして、この合併のご理解は得られないというふうに思っております。ですから、藤岡市と鬼石町の連結道路ということばかりではない。先ほどもお話がありましたように、高崎市に向けた道路の整備、または今後出てくるであろう埼玉県へ向かったもの、こういったものもしっかり藤岡市の市民生活を支える上で重要な項目だというふうに考えております。ですから、視点を藤岡市に変えるのではなくて、しっかりと藤岡市の将来のあり方、こういったものを藤岡市民の手でやっていけるようなまちづくりをしていきたいというふうに思います。

また、自主財源でございますが、自主財源というものを簡単に論じるわけにはいかないのですけれども、やはりある意味で工業誘致などの今までの経緯もあります。まだまだあいている工業団地もありますので、こういうところを積極的に工業が進出できるようなものにしていかなければいけない。また、税というものについての考え方、市民に負担を求めるとのことだけではだめだというふうに思っています。今、国の方では今までにない黒字だということで企業がいろいろ述べておりますけれども、まだまだ地方に、その効果もたらされていないというふうに考えております。そういうことで、今後まちづくり、例えば先ほどの道路、そういったものの整備によって企業の進出だとか、また活性化、こういったものが自主財源として大事な要素であるというふうに考えております。

以上でございます。

議長（佐藤 淳君） 他に質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

議長（佐藤 淳君） お諮りいたします。質疑もないようでありますので、質疑を終結いたします。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(佐藤 淳君) ご異議なしと認めます。これをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第49号については、会議規則第36条第2項の規定により委員会付託を省略いたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(佐藤 淳君) ご異議なしと認めます。よって、議案第49号については委員会付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

木村喜徳君、登壇を願います。

(15番 木村喜徳君登壇)

15番(木村喜徳君) 議長より登壇の許可を得ましたので、本案に対し反対討論を行います。

合併については、市の最重要課題であるとの認識から、議会と協議を十分重ね、市民の声に耳を傾け、十分時間をかけて審議をすると何度となく明言してきたにもかかわらず、全力を傾けて進めていた1市3町での合併が事実上失敗となるや否や、10日あまりで鬼石町長から強い意思を受けたとして1市1町の合併を目指す。市民、議員に説明のないままで、テレビ、新聞等の報道で市民も議員も知ることになりました。これは、藤岡市民として非常に残念なことであり、議会としても残念なことであります。議会と協議をしながら市民の声を聞いてと、たび重なるごとに明言したにもかかわらず、議会に説明をする前にテレビ、新聞等で報道されたり、昨年11月に高崎市より任意合併協議会への参加の呼びかけがあったにもかかわらず議会での追求があるまでは公表せず、また議会からの全戸アンケートの申し込みに対しても一言で拒否をし、また市民に対しての二千数百のアンケート結果についても参考にはしない旨の発言を6月議会でするなど、あまりにも市民、議会を軽視した考えである。このような考えの上で物事を判断する市長は、藤岡歴代市長にはいなかったと私は思います。議会としても十分協議をし、市民の声を反映させ、こうしただれが考えても当然と思われる自然の流れで、行政、議会、市民の合意形成がない合併の前提となる法定合併協議会に反対し、主権者たる市民の皆様にご支持を強くいただけるよう心からお願い申し上げまして討論とさせていただきます。

議長(佐藤 淳君) 他に討論はありませんか。

吉田達哉君、登壇を願います。

(23番 吉田達哉君登壇)

23番(吉田達哉君) 議長より登壇の許可がありましたので、議案第49号藤岡市・鬼石町合併協議会設置について賛成の立場から討論を申し上げます。

本市をめぐる合併の動きを見ますと、昨年12月8日に藤岡市、鬼石町、吉井町の1市2町による多野藤岡地域任意合併協議会を設立し、本年5月19日まで都合6回の協議を重ねて27項目すべての協議が終了しました。この間、民間から選出された委員をはじめとする関係者の多大な努力は並々ならぬものがあったと思います。5月23日に施行された吉井町と鬼石町の住民投票により、両町が高崎地域への合併の方向を選択したことは議員の一人としても、まことに残念な思いであります。市長の提案理由の説明にもありましたように、6月4日の多野藤岡地域任意合併協議会解散調印式後、鬼石町の関口町長より改めて合併協議の申し込みが市長にありました。そして、今回、1市1町の枠組みで法定協の設置が提案されるに至ったわけであります。このように合併の枠組みが変わる中、今回提案の藤岡市・鬼石町との1市1町に落ちついたところではありますが、この1市1町は当初から本地域における合併協議の中で中心として揺らぐことなく常に一体となって活動してまいったことはご承知のところであります。この背景には、古くから生活圏を一体とし、通学、通勤、買い物など住民生活の面でも強い結びつきがあり、そのことが多くの住民に認知されていることにほかならないと思うものであります。市長が、6月4日の鬼石町からの申し込みを受け、この1市1町の合併協議を進めることを決意したことは、合併特例法期限内の合併が間近に迫っていることを考えると最善の選択だと私は考えております。本日に至るまで市長は、議員への説明、各種団体構成員への説明、そして各公民館での地元住民への説明を行ってまいりました。その説明会の場では、市長も直接市民と接し、いろいろな貴重な意見を伺ったと聞いております。さらに、抽出による住民アンケートも実施し、努力してきたと私としては考える次第であります。今後につきましても、一人でも多くの方に説明できるよう一層努力をしていただきたいと思います。

次に、1市1町での合併のメリットであります。さきに述べましたように同じ生活基盤を有し、消防やし尿処理など数多くの分野で既に広域行政を行っている中、合併することにより一層行政効果が向上し、行政サービスの向上が図られるという点であります。また、法期限内の合併に向けて協議を進めるということでもありますから、合併特例債をはじめとする特例法上の支援措置を新市の市民福祉向上のために利用できるという点も上げられるかと思えます。いずれにいたしましても、今後は限られた時間の中の作業になることが予想されますが、執行部におかれましては鋭意努力していただきたいと思います。また、我々議員も市民から負託を受けている立場を改めて認識し、50年前の昭和の大合併を決断し、今の藤岡市をつくり上げた当時の先輩議員の英断を思い起こし、我々も「合併してよかった。」と言われるまちづくりに向けて決断をし、努力していくことが責務だと考えます。

以上のことから、議案第49号について賛意をあらわし、私の賛成討論といたします。

議員各位の賛同をいただきますようよろしくお願いいたします。

議長（佐藤 淳君）他に討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（佐藤 淳君）討論なしと認めます。これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。議案第49号藤岡市・鬼石町合併協議会の設置について、本案は原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（佐藤 淳君）起立多数であります。よって、議案第49号は原案のとおり可決されました。

暫時休憩いたします。

午前11時58分休憩

午後1時再開

議長（佐藤 淳君）休憩前に引き続き会議を開きます。

第7 議案第50号 平成16年度藤岡市一般会計補正予算（第1号）

議長（佐藤 淳君）日程第7、議案第50号平成16年度藤岡市一般会計補正予算（第1号）を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。市長の登壇を願います。

（市長 新井利明君登壇）

市長（新井利明君）議案第50号平成16年度藤岡市一般会計補正予算（第1号）についてご説明申し上げます。

今回の補正は、藤岡市と鬼石町が地方自治法及び市町村の合併の特例に関する法律の規定に基づき合併協議会を設置することに伴い、所要の予算措置が必要となりましたので、第1条で示しましたとおり歳入歳出それぞれ794万2,000円を追加し、183億3,894万2,000円とするものであります。

続きまして、事項別明細についてご説明申し上げます。最初に、歳出では、第2款総務費、第1項総務管理費、第10目合併推進室の藤岡市・鬼石町合併協議会負担金であります。合併協議会に要する経費の本市負担分として794万2,000円を追加するものであります。

次に、今回の補正財源となります歳入では、前年度繰越金の一部を充当することとし、第19款繰越金で794万2,000円を追加するものであります。

以上が説明の要旨であります。慎重審議の上、ご決定くださいますようお願い申し上げます。

ます。

議 長（佐藤 淳君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。ご質疑願います。

（「なし」の声あり）

議 長（佐藤 淳君） お諮りいたします。質疑もないようでありますので、質疑を終結いたしたいと思ひます。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議 長（佐藤 淳君） ご異議なしと認めます。これをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第50号については、会議規則第36条第2項の規定により委員会付託を省略いたしたいと思ひます。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議 長（佐藤 淳君） ご異議なしと認めます。よって、議案第50号については委員会付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

議 長（佐藤 淳君） 討論なしと認めます。これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。議案第50号平成16年度藤岡市一般会計補正予算（第1号）本案は原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

議 長（佐藤 淳君） 起立多数であります。よって、議案第50号は原案のとおり可決されました。

字 句 の 整 理 の 件

議 長（佐藤 淳君） お諮りいたします。本会議で議決されました議案については、会議規則第42条の規定に基づき、その条項・字句・数字等の整理を要するものにつきましては、その整理を議長に委任されたいと思ひます。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議 長（佐藤 淳君） ご異議なしと認めます。よって、条項・字句・数字等の整理は議長に委任することに決しました。

市 長 あ い さ つ

議 長（佐藤 淳君） この際、市長より発言を求められておりますので、これを許します。

市長の登壇を願います。

(市長 新井利明君登壇)

市長(新井利明君) 平成16年第4回藤岡市議会臨時会の閉会に当たり、一言御礼のごあいさつを申し上げます。

本臨時会に提案いたしました議案につきましては、慎重ご審議の上ご決定くださいまして深く感謝申し上げます。今後とも議員各位のご協力のもとに、市政発展と市民福祉向上のため誠心誠意努力してまいり所存でありますので、よろしくお願い申し上げます。

大変暑い日が続いております。議員各位におかれましては健康に十分ご留意され、ますますご活躍くださいますようご祈念申し上げまして閉会のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

閉 会

議長(佐藤 淳君) 以上をもちまして本会議に付議されました案件の審議は全部終了いたしました。

これにて平成16年第4回藤岡市議会臨時会を閉会いたします。

午後1時5分閉会